

入賞者および入賞作品

※肩書きは令和4年3月31日現在

1 最優秀賞 1点

≪論文部門≫

(1) 安本 萌恵 (日本女子大学 家政学部 住居学科 建築デザイン専攻)

「近接する公園の連携整備計画についての研究—雑司が谷の7つの公園を対象として—」

木造密集地域にある雑司が谷の7つの公園を研究対象として、現地や公園利用者の丹念な調査から住民の公園の利用実態を分析。周辺住民の「公園の使い分け」の視点から近隣の公園の再整備を提案した有意義な研究である。課題となっている都市公園の配置や機能の再編等を考えるうえで参考となる研究として高く評価できる。

2 優秀賞 3点

≪論文部門≫

(1) 石綿 優太郎 (千葉大学 園芸学部 緑地環境学科)

「旧芝離宮恩賜庭園を観賞する人と範囲の変遷に関する研究」

旧芝離宮恩賜庭園の歴史的な変容経緯を文献等から調査するとともに、高層ビルに囲まれた文化財庭園における外部からの観賞に着目した点は有意な研究として評価される。周辺建築物等から観賞する人の規模を明らかにしたことは意義深い。

≪実施記録及び報告部門≫

(1) インクルーシブ・プレイグラウンド研究会 (代表 早貸 秀樹)

「インクルーシブ・プレイグラウンド整備及び利用実証実験に関する報告」

都立シンボルプロムナード公園に遊具を設置し、実証実験を行った記録。インクルーシブな社会の実現に向け、子どもの遊びを通じた、公園での取り組みの有効性の普及に寄与する記録である。

≪ボランティア・社会貢献活動部門≫

(1) 善福寺公園 植物勉強会 (代表 佐藤 康子)

「善福寺公園(杉並区)でボランティアが植生調査に基づいた生物多様性に配慮した3年間の活動」

善福寺公園内の3か所の環境別復元地において、自生種の移植や選択的除去など、丁寧な希少種の保護復元活動を行った記録。活動を紹介する看板掲示をきめ細やかに行うなど、来園者への普及啓発を行っている点が評価できる。

3 奨励賞 9点

≪技術部門≫

- (1) 石川 里桜 (千葉大学大学院 園芸学研究科)
「水を訓む一河川とボーダーレスな“親水公園”のデザイン提案一」

≪論文部門≫

- (1) 韓 煜明 (中央大学 理工学部 人間総合理工学科)
「コロナ時代における都市崖線公園緑地の空間的特性と利用に関する基礎的研究
～新宿区立おとめ山公園を対象として～」
- (2) 中島 深太郎 (東京工業大学 環境・社会理工学院 土木・環境工学系 都市・環境学コース)
「公園の設計・運営をめぐる井下清の理念と実践一復興小公園を中心に一」
- (3) 池田 龍仁 (千葉大学 園芸学部 緑地環境学科)
「都市公園における利用者の滞留空間の選択に関する研究一猿江恩賜公園を例に一」

≪実施記録及び報告部門≫

- (1) 六義園ガイド倶楽部 (代表 加納 達信)
「六義園の自然 植物・樹木編」
- (2) (株) One Team (代表 伊藤 仁)
「赤坂農園」活動報告 ～屋上緑化から、野菜を年4作収穫できる社員参加の企業農園へ～」

≪ボランティア・社会貢献活動部門≫

- (1) 南沢水辺公園のなかまたち
「公園をみんなでつくり続けて16年」
- (2) 桜ヶ丘公園雑木林ボランティア
「皆伐更新による雑木林管理」
- (3) エコシステムアカデミー水元 (代表 板倉 完次)
「企業が地域協働で取り組む「自然と産業のコラボレーション」の普及啓発に寄与する CSR 活動
～森のめぐみの体験学習～」